

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	音環境規準検討小委員会	主 査 名：古賀 貴士 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：岡野 利行
設 置 期 間	2010 年 4 月 ～ 2014 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・本小委員会は、今後順次制定していく音環境規準について、次の事項を遂行することを目的とする。1. 作成・改訂する音環境規準の検討・決定。2. 作成・改訂スケジュールと体制の検討・決定。3. 遮音性能規準の考え方等全体に影響を及ぼす事項の検討。4. WG による音環境規準 WD の作成・改訂。5. 企画刊行運営委員会移行後のフォロー。6. 作成に関する全体マネージメント</p> <p>2010 年度：2009 年度 WG にて活動した①遮音性能規準、②集合住宅遮音設計指針の作業グループを本小委員会傘下の WG として設置し、集合住宅遮音性能規準と集合住宅遮音設計指針の WD を作成に着手する。全体マネージメント。</p> <p>2011 年度：WG にて WD を完成する。全体マネージメント。</p> <p>2012 年度：集合住宅遮音性能規準刊行小委員会と集合住宅遮音設計指針刊行小委員会の CD 作成、内部査読、DS 作成、シンポジウム開催。全体マネージメント。</p> <p>2013 年度：集合住宅遮音性能規準と集合住宅遮音設計指針の AIJES の FDS 作成、パブコメ募集・対応、外部査読、ES 完成、講習会開催、出版をフォロー。全体マネージメント。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：なし 主査：古賀 貴士(鹿島建設) 幹事：池上 雅之(大林組)、平光 厚雄(国総研) 委員：井上 勝夫(日本大学)、岩瀬 昭雄(新潟大学)、岡野 利行(竹中工務店)、佐久間 哲哉(東京大学)、田端 淳(大成建設)、中澤 真司(鉄建建設)、羽入 敏樹(日本大学)、濱田 幸雄(日本大学)、平松 友孝(音・環境研究所)、福地 智子(永田音響)、宮島 徹(清水建設)、吉村 純一(小林理研)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 集合住宅遮音性能規準 (2014.9 予定) 2. 集合住宅遮音設計指針 (2014.9 予定)
講習会	1. 「(仮)集合住宅の遮音性能規準と遮音設計指針 AIJES」開催予定 参加者数(予定) 110 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第73回音シンポ「集合住宅の遮音性能規準(案)と遮音設計指針(案)」 参加者数 110 名
大会研究集会	1. 無し 参加者数 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. パブリックコメントの実施
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	[集合住宅]当初外部査読を 1 名として AIJES 作成作業を進めていた間違いがあり、本委員会設置期間内の AIJES の出版に至らなかった。 [全体マネージメント]2014 年度にて大会 OS を企画することとした。
委員会活動の問題点 ・課題	集合住宅では策定項目や背景整理項目が多岐にわたり、AIJES 作成に多大な時間を要している。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価 (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、今後順次制定していく音環境規準について、その企画構成を検討するとともに、進行中の刊行小委員会での活動をフォローすることを目的とする。</p> <p>①全体マネジメントについては、2014 年度大会 OS を企画立案するに至り、継続して議論する機会を設けた。</p> <p>②集合住宅の建設に必要な遮音性能規準・設計指針の AIJES を作成・刊行することが音環境運営委員会でも重要視されており、そのフォローに注力した。しかしながら、外部査読②の実施が遅れた。現在外部査読は終了したところであるが、外部査読結果と ES 原稿を企画刊行運営委員会に提出するのは次年度ユニットの 5 月以降となるため、出版は 10 月頃になるものと想定している。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。